神の召しに従い、神が導かれるままに行動する

私たちが聖書を読むとき、繰り返し示されるテーマのひとつが「神の召しに応答する人間の姿」です。
アブラハムは、行き先も知らされずに神の声に従い旅立ちました（創世記 12 章）。
モーセは、燃える柴の中から語る神の声に戸惑いながらも、イスラエルの民を救う神からの使命（召命）を受け入れました（出エジプト記 3 章）。
彼らは、**自分の力や理解を超えた神の召し（召命）に「はい」と応答した**のでした。

神の召しとは、特別な人だけに与えられるものではありません。
主はすべての人を愛し（≒相手を第一に考え、思いやる、尊重する）、**それぞれに目的を持って呼びかけられます。その召しに応えるとは、自分の計画を神の御手にゆだね、神の導きに信頼して進むことです。**

テサロニケの信徒への手紙 I	4:9 兄弟愛については、あなたがたに書く必要はありません。あなたがた自身、互いに愛し合うように、神から教えられているからです。
ヨハネの手紙 I	3:23 その掟とは、神の子イエス･キリストの名を信じ、この方がわたしたちに命じられたように、互いに愛し合うことです。
	4:7 愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。
	4:11 愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

ときに、**神様の導きは私たちの思いと異なり、不安や恐れを伴います。**
しかし、イエス・キリストご自身がゲツセマネの園で「わたしの願いではなく、御心のままに」と祈られたように（ルカ 22:42）、神様への従順こそが真の信仰の姿なのです。

マタイによる福音書	26:39 少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」
ルカによる福音書	22:42 「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」
エフェソの信徒への手紙	1:11 キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。
ヤコブの手紙	1:18 御父は、御心のままに、真理の言葉によってわたしたちを生んでくださいました。それは、わたしたちを、いわば造られたものの初穂となさるためです。

神様は、私たちに完璧な信仰を求めておられるのではありません。神様は、自分の弱さを抱えつつも、信頼して一歩踏み出す姿を喜ばれます。ペテロは水の上を歩こうとし、風を見て沈みかけましたが、その瞬間イエスは手を伸ばして彼を救われました（マタイ 14:29～31）。
主に従おうとする者には、神様は必ずその手で支えられるのです（創世記 28：15 見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない）。

人生の中で、何かに踏み出すべきか迷っているとき、静かに祈り、神様（聖書）の御言葉に耳を傾けてみてください。神様は今も語っておられます。たとえ私たちには道が見えなくとも、神の召しに応える時、私たちの歩みは祝福へと導かれます。

詩編 37：5～6
あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ、主は計らい 6 あなたの正しさを光のように／あなたのための裁きを／真昼の光のように輝かせてくださる。

主の召しに耳を傾け、忠実な信仰をもって従う者となり、与えられた道を進んで行くことができるよう、心から願いたいと思います。